



「伊勢湾台風」その一  
歴史的な大災害とされるものの中でも、昭和三十四年九月のいわゆる「伊勢湾台風」(台風十五号)は中部地方では特に大きな影響があったものとして記憶されています。特に愛知県、三重県での被害が甚大でした。激しい暴風雨に加え、台風が伊勢湾の満潮時と重なったため高潮が発生し、大きな浸水被害が発生することになりました。

シリーズ

秘蔵写真

# 今は昔の林業

## 第29回

中部森林管理局総務課

井上 日呂登

今は昔、山村に暮らす人々とその生業としての林業を当局秘蔵の写真とともに紹介します。

当時、名古屋営林局庁舎が置かれていた名古屋市も災害の直撃を受け、通信・交通機関が満足に機能しない状況となります。

名古屋営林局では災害応急対策本部を設置し、被害状況の把握に努める情報連絡班、台風通過後に出局不能となった百人を超える職員を捜索する救護班、破損・浸水した宿舎を手当する応急復旧班の三班からなる体制



制で、災害からの復旧にねばり強く取り組むこととなりました。

また、愛知県・岐阜県・長野県内の各国有林においても大雨による営林署庁舎・宿舎・施設の破損・崩壊、林道や森林鉄道・軌道の路線の流失、土砂崩れや強風による大規模な風倒木被害が発生するなど、この伊勢湾台風の影響は後々まで続く大きなものになりました。



ここで紹介している写真は、当局サイト「モノクロ森林紀行」で紹介しております。これは、カラー写真のない時代へ時を超えて！むかしの写真を紹介するサイトです。  
当サイトへは、コードを読み込んでください。

